

■今月の特選句

2026年1月



外側は嫌われ内側は愛され銀杏

桑田愛子

銀杏は踏みつけると大変な悪臭である。だから嫌われる。しかし、内側にある「実」は美味だから愛される。「謎かけ俳句」めいた作品で楽しい。



蘊蓄は聞き飽きました日向ぼこ

西野周次

日向ぼこは、複数の人が楽しむ時は物知りが喋り聞き手はそれを楽しむ。ただ、同じ話を繰り返されるとねえ。「蘊蓄は三回までよ日向ぼこ」。



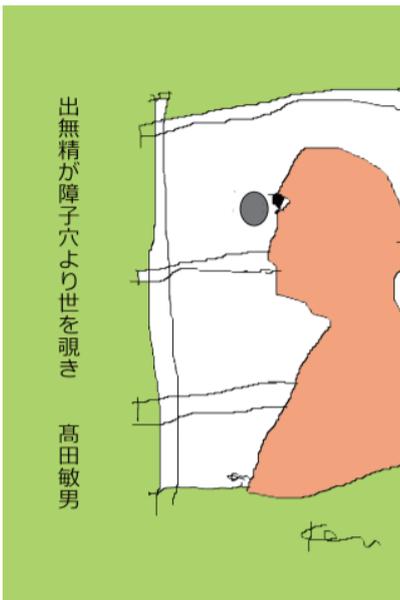
冬のハエ一匹だから楽しい

鈴木和枝

一匹では孤独だろうとか、かわいそうというのは人間の勝手な解釈。一匹でいることを楽しめる蠅もいるのだ。冬にしか味わえない自由がある。

■今月の特選句

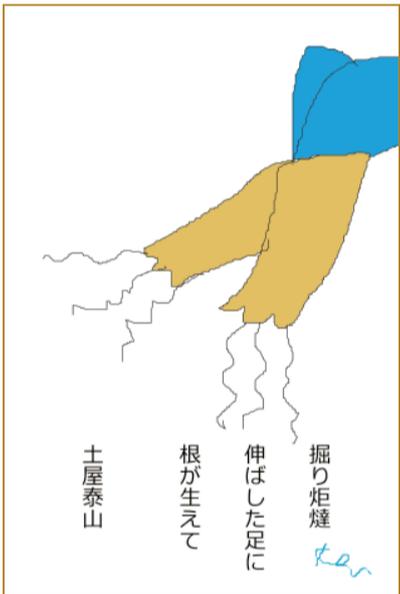
2026年1月



出無精が障子穴より世を覗き

高田敏男

出無精だからと言って世の動きに無頓着というわけではない。関心はある。気になるから覗く。もっとも現代は、パソコン、スマホから覗いているね。



掘り炬燵伸ばした足に根が生えて

土屋泰山

掘り炬燵に入ると、なぜか出るのが億劫になる。その理由が解明された。目には見えないが、足から小さなひげ根がたくさん生えるからなのだ。



叱られて畳廊下の冷たさよ

池田奈美子

「畳廊下」のある家は、大きなお屋敷だろう。叱られて、しょんぼり部屋を出た時、足裏に感じた冷たさは悲しい心が感じている冷たさなのである。